

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2021年11月)

【ポイント】

内政

- 1日、18ヶ月ぶりにワクチン接種済観光客(未成年は除く)に対し国境再開。
- 共和国大学(Udelar)開発生物工学科は、新型コロナウイルス経口ワクチンの試薬開発を開始。
- 全国労働総同盟(PIT-CNT)の新組織選挙が行われた。
- 6つの空港コンセッションを入札なしに直接譲渡し、カラスコ空港のプエルタ・デル・スル社(Puerta del Sur)へのコンセッション期間を20年に延長するという政府の決定は、連立政党、特にカビルド・アビエルト党及び独立党に悪印象をもたらした。
- 社会保障専門家委員会は、政府が構想する年金臨時改革に関する投票を行った。
- 厚生省は、イベント開催に係る新規衛生措置を発表。
- 国民党は、緊急検討法擁護委員会の創設を発表。
- 政府は、12月1日よりファイザー社製の新型コロナウイルスワクチン20万回分を外国人観光客に提供する旨発表。

外交

- 11月8日から9日にかけてウエンディ・シャーマン米国務副長官がウルグアイを訪問。
- ウルグアイのグローバル・メタン・プレッジ参加表明後、ペニャ環境大臣はジョン・ケリー米気候問題担当大統領特使との会談を実施。
- コンラッド・フェルベール・ウルグアイ食肉協会(INAC)会長、フェルナンド・マツス農牧水産大臣及びデルガド大統領府長官は、東南アジア諸国連合(ASEAN)の外交使節団の訪問を受け入れた。
- 米国食肉輸入業者評議会は、ドウラン駐米ウルグアイ大使及びフェルベール・ウルグアイ食肉協会会長宛の書簡を通じて、ウルグアイ産食肉へのアクセス改善を目的とした米ウルグアイ間FTAを具体化させることに合意する旨発表。
- ブスティージョ外務大臣は、EU代表団との会合で、メルコスール・EU間におけるブロック単位でのFTAに関して、「ウルグアイとしては、メルコスール及びEU間の親密な関係構築機会に障害をもたらす困難があることを残念に思う。」と述べた。

【本文】

1 内政

(1) 国境再開

1日、18ヶ月ぶりに観光客に向け国境が再開された。入国者にはワクチン接種済みであること(未成年は除く)、入国72時間前までのPCR検査陰性証明を提示すること及び入国前に受けたPCR検査日から数えて7日後に再度PCR検査を受検することが要件として求められる。また、オ

オンラインで入国前事前申告を行うことも義務とされる。国境再開により、国家緊急事態宣言後に打撃を受けていた航空便の増加が政府のねらい。

(2) 新型コロナウイルス経口ワクチン開発の開始

共和国大学(Udelar)開発生物工学科は、新型コロナウイルス感染症経口ワクチンの試薬開発を開始した。開発結果が有効である場合、Udelar は生産可能な製薬会社との協働が必要となる。

(3) 全国労働総同盟(PIT-CNT)の新組織

PIT-CNT の新組織選挙の結果、マルセロ・アブダラ全国貴金属関連労働者連合会長が PIT-CNT 総裁、ホセ・ロレンソ・ロペス国家公務員組織連合会長がPIT-CNT 副総裁に就任した。また、エルビア・ペレイラ・ウルグアイ教育連盟会長が PIT-CNT 事務局長を担当する。

(4) 6つの空港コンセッションに関する議論

リベラ空港、サルト空港、カルメロ空港、ドゥラスノ空港、メロ空港及びパイサンドゥ空港のコンセッションに関して、入札を行わない決定及びカラスコ空港のプエルタ・デル・スル社(Puerta del Sur)へのコンセッション期間を20年に延長するという政府の決定は、連立政党、特にカビルド・アビエルト党及び独立党に悪印象をもたらした。

(5) 年金改革

社会保障専門家委員会は、政府が構想する年金臨時改革に関する投票を行った。与党及び企業代表が賛成票を投じた一方で、拡大戦線(FA)、全国労働総同盟(PIT-CNT)及びウルグアイ国立退職年金協会は反対票を投じ、結果は賛成10票、反対5票となった。今次結果を受け、年金改革に向けた行政府による法案の起草及び議会討論が今後のプロセスとなる。

(6) イベント開催に係る新規衛生措置

12日、厚生省が発表した大規模大衆イベント開催に関する新規ガイドライン及び推奨事項は以下のとおり。

(ア) 参加者全員ワクチン接種済みの場合：屋外収容率100%、屋内収容率80%。

(イ) ワクチン接種済み及び未接種の参加者が混同する場合：屋内収容率70%、屋内収容率65%。

(ウ) 検査結果待ちの者、隔離中の者はいかなるイベントにも参加不可。

(7) 緊急検討法擁護委員会の発足

国民党は、緊急検討法擁護委員会の創設を発表した。同委員会は、緊急検討法擁護にかかるキャンペーン活動の運営及び戦略の観点から発足された。

(8) 観光客向け新型コロナウイルスワクチン

政府は、12月1日よりファイザー社製の新型コロナウイルスワクチン20万回分を外国人観光客に提供する旨発表した。成人は3回目の接種、12歳～17歳は1回目の接種から厚生省ウェブサイトより予約可能となる。

2 外交

(1) シャーマン米国務副長官の訪問

11月8日から9日にかけてウエンディ・シャーマン米国務副長官がウルグアイを訪問し、ラカジェ・ポウ大統領、ブスティージョ外務大臣及びアルベレチェ経済財務大臣と会合を実施した。外務省での会合では、ウルグアイ・米両国が民主主義、法の支配、多国間主義、人権等の基本的価値を共有している点について改めて確認した。ブスティージョ外務大臣は、より多くのウルグアイ製品の米国市場流通をはじめ、米国との経済貿易関係強化を望んでいる旨述べた。

(2) 気候サミットを活用した米国への接近

ウルグアイのグローバル・メタン・プレッジ参加表明後、ペニャ環境大臣はジョン・ケリー米気候問題担当大統領特使との会談を行い、環境問題に関する協力について合意することを目的としたロードマップを作成する旨合意した。

(3) ASEAN 外交使節団の訪問

コンラド・フェルベール・ウルグアイ食肉協会 (INAC) 会長、フェルナンド・マツス農牧水産大臣及びデルガド大統領府長官は、東南アジア諸国連合 (ASEAN) の外交使節団 (ベトナム、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン) の訪問を受け入れた。当国は、高い消費者ニーズを有する人口 650 万人の同地域へのウルグアイ牛肉の輸出に関心を示している。

(4) 米国との FTA 交渉具体化

米国食肉輸入業者評議会 (Consejo de Importadores de Carne de Estados Unidos、英語略称: MICA) は、ドゥラン駐米ウルグアイ大使及びフェルベール・ウルグアイ食肉協会会長宛の書簡を通じて、ウルグアイ産食肉へのアクセス改善を目的とした米ウルグアイ間 FTA を具体化させることに合意する旨発表した。ウルグアイ産食肉の米国市場は、中国市場に次ぎ二番目となっている。

(5) メルコスール・EU 間 FTA

メルコスール及び EU は、20 年に及ぶ FTA 交渉の末、2019 年に署名を行ったが、未だに施行されていない。理由としては、メルコスール及び EU 両加盟各国議会における承認がなされていないためであるが、EU 諸国はメルコスール加盟国の地球環境問題に対する姿勢を問題視し、承認に至っていない。特にフランス及びオランダが承認を躊躇っており、ボルソナロ伯大統領の地球環境問題に対する取り組みを批判している。右状況を受け、ブスティージョ外務大臣は、EU 代表団との会合で、メルコスール・EU 間における多国間 FTA に関して、「ウルグアイとしては、メルコスール及び EU 間の親密な関係構築機会に障害をもたらす困難があることを残念に思う。」と述べた。

3 要人往来

(1) 往訪

- 11月1日～7日、アルベレチェ経済財務大臣の英国訪問
- 11月1日～7日、モレイラ住宅土地整備大臣の米国訪問
- 11月7日～13日、ペニャ環境大臣の英国訪問
- 11月8日～19日、ダ・シルベイラ教育文化大臣及びリベイロ次官の仏訪問
- 11月18日～20日、ブスティージョ外務大臣のコロンビア訪問
- 11月19日～20日、サリーナス厚生大臣の伯訪問

(2) 来訪

- 11月8日～9日、ウエンディ・シャーマン米国務副長官の訪問
- 11月15日、ASEAN 外交使節団
- 11月29日、Riva Ganguly Das インド外務省東方担当事務次官(当時)